

政策体系	基本目標名	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	施策主管課長	観光推進課
	政策名	01	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		
	施策名	02	魅力ある観光資源の開発と整備		
施策関係課	広報ブランド推進課、市民生活課、産業政策課、農政課、農山村振興課、文化推進課、スポーツ推進課、文化財課			石川 順一	

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標				単位	R4	R5	R6	R7	成果指標設定の考え方	①適切に開発・整備した観光スポットを把握することにより、観光資源に係る各種事業の成果向上が期待できるため、指標として採用した。 ②計画通り修繕を行えば、観光施設等が適切に維持管理出来ていると考えられるため、指標として採用した。
	①観光資源（観光スポット、自然、特産品、観光企画商品）	① 観光スポット数	箇所	134	-	-	-					
②市有観光施設	② 市有観光施設数	箇所	14	-	-	-						
	③											
	④											
施策の目的「意図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標（意図の達成度を表す指標）				区分	単位	R4	R5	R6	R7	成果指標の取得方法
	①新たな観光資源を発掘・整備を行う。 ②時代のニーズに合った適切な維持管理がされている。	① 開発・整備した観光資源数	目標	箇所	4	3	4	3				
		② 市有観光施設等改修箇所数	目標	箇所	2	-	-	-				
			実績	箇所	7	7	7	7				
			目標		12	-	-	-				
			実績									
			目標									
			実績									
			目標									
			実績									

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	
新しい観光資源の開発と整備	①観光資源	観光資源として整備されている。	① 観光ルート以外の新たな観光資源数	目標	箇所	3	2	3	2	利便性の高い観光施設の整備・維持管理	①市有観光施設	安全な利用が可能になっている。	① 体験型宿泊施設の修繕箇所数	目標	箇所	10	12	14	16	
			② 開発・整備した観光ルート	実績	ルート	2	-	-	-				② 市有観光施設等改修箇所数	目標	箇所	10	-	-	-	
			③ 広域での連携事業数	目標	事業	1	1	1	1				③ 案内看板設置・改修箇所数	実績	箇所	7	7	7	7	
			④	実績		0	-	-	-				④	目標	箇所	12	-	-	-	
宿泊、体験型観光の推進	①国内に居住する人 ②アジアの観光客	①②本市で宿泊・体験してもらう。	① 体験型宿泊施設の宿泊者数	目標	人	9,000	9,100	9,200	9,300				①	目標						
			② 体験メニュー数	実績	個	3,708	-	-	-	②	実績									
			③ 体験型宿泊施設利用者の満足度	目標	%	41	42	42	42	③	目標									
			④	実績		33	-	-	-	④	実績									
			① 体験型宿泊施設利用者の満足度	目標	%	80	81	82	83				①	目標						
			②	実績		93	-	-	-				②	実績						
			③	目標									③	目標						
			④	実績									④	実績						

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	令和4年度施策の取組方針				施策の取組方針・成果指標達成状況			
	取組方針	成果指標	達成状況	備考	取組方針	成果指標	達成状況	備考
基本事業	・指定管理者と連携し、「新しい生活様式」に沿った安全で快適な観光施設の環境整備に努める。 ・観光資源の磨き上げと近隣自治体やスポーツ、産業及び文化分野との連携による魅力的な観光ルートの開発に取り組む。 ・マーケティングを通じて新たな特産品・名産品の開発・商品化に取り組む。 ・国際化対応看板を含む案内看板の整備を図る。 ・市有観光施設の利用者ニーズを把握し、体験メニューの充実を図り、リピーターの増加に取り組む。	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	【施策の取組方針達成状況】 ・安全で安心して観光施設を利用してもらうために、パーテーションや手指消毒液を設置するなど、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めた。 ・新たな観光ルート開発として林道作原沢入線の観光活用について、みどり市と意見交換を行い、林道作原沢入線の治山工事や展望台設置事業の進捗状況を見ながら検討を継続することとなった。 ・地域DMO（佐野市観光協会）が大学生と共同で佐野らーめんソフトクリームを開発・販売した。 ・これまで食べ親しんできた「佐野餃子」に注目し、その特徴などをPRした。 ・国際化対応（英語）看板を市内2か所（予定数）に整備した。地域DMOが英語版らーめんマップを10,000部作成した。 ・指定管理者と体験型宿泊施設の体験メニューを見直したが、利用者からニーズの把握まで至らず、次年度も引き続き調査研究することとした。 【成果指標達成状況】 ・地域DMO（佐野市観光協会）が佐野らーめんソフトクリームを開発・販売した。 ・老朽化している観光施設等の改修を計画的に適切に行なった。			
	・近隣自治体やスポーツ、産業及び文化分野との連携を通じての交流促進など新たな観光資源及びルートを開発し、観光の回廊化を図る。 ・SNS等を活用し特産品・名産品の情報収集を図り、観光資源として整備していく。	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	【基本事業の取組方針達成状況】 ・林道作原沢入線の観光活用について、みどり市と意見交換を行った。翌年度以降の展望台設置のスケジュールを決定した。 ・地域DMO（佐野市観光協会）が大学生と共同で佐野らーめんソフトクリームを開発・販売した。 ・食べ親しまれている佐野の「餃子」について特徴などのPRし、市民に愛着をもたせるとともに市外へのPRを図った。 【成果指標達成状況】 ・観光資源については、現在の特産品・名産品を活用し、観光資源の磨き上げを行った。 ・広域での連携事業数は、目標を達成することが出来なかったが、栃木市、みどり市との継続的に連携体制を構築することができた。			
基本事業	・観光関連事業者や指定管理者等と連携し、観光客のニーズにあった体験メニューの充実と効果的なPRを図る。	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	【基本事業の取組方針達成状況】 ・指定管理者と協議し、体験型宿泊施設の体験メニューを見直し、体験型宿泊施設のパンフレットをリニューアルし、PRを行った。新たなメニューの充実までには至らなかった。 【成果指標達成状況】 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、体験型宿泊施設の宿泊者数は、目標を達成することが出来なかった。 ・体験型宿泊施設利用者の満足度は目標を達成することが出来た。			
		□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成	□ 全て達成 ■ 一部未達成 □ 全て未達成				

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
		市民	事業所	行政
	・2022年10月に「いちご一会とちぎ国体」及び「いちご一会とちぎ大会」が開催された。 ・新型コロナウイルス感染症の感染予防について段階的に行動制限が緩和された。 ・市議会において体験型宿泊施設（あきやま学寮等、蓬山ロジビレッジ、根古屋森林公園）の利便性向上を図る環境整備、遊具の点検状況、「奥佐野」における事業や観光資源の今後の活用についての質問があった。	・おもてなしの心をもって、観光客へ観光情報の提供や観光スポットの案内をする。 ・外国人旅行者への理解を深める。	・おもてなしの心で観光客と接し、誘客とリピート率の向上を図る。 ・旅行者のニーズに対応した商品の開発やサービスを提供する。 ・行政と積極的に連携する。	・観光施設の整備に努める。 ・観光スポットへのアクセス等の利便性の向上に努める。 ・観光ルートを設定する。 ・観光情報を拡充し、観光客の利便性の向上を図る。 ・「新しい生活様式」に沿った受入環境整備する。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
・観光施設の維持・管理について、施設の老朽化に伴う修繕等に取り組んだ。また、観光客が、安全に安心して観光施設を利用できるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、適切な維持管理利便性の向上に努め、観光施設の修繕に取り組んだが、観光施設の老朽化が進んでおり、計画的な修繕が必要となっている。 ・新たな観光ルートは開発・整備できなかった。 ・既存の特産品・名産品を活用し、観光資源の磨き上げを行ったが、新たな観光資源は2にとどまった。 ・指定管理者と協力し、コロナ禍においても誘客が図れるよう、新たな体験メニューについて検討したが、要望等の検討材料が少なかったことから現在のメニューを見直し、調査研究を引き続き行うこととした。 ・観光案内看板は目標に達しているが、十分でない。 ・みどり市との交流促進を行ったが、具体的な沢入線の観光活用の検討ができなかった。 ・栃木市との合同イベントやみどり市のどまんなかフェスタへの参加など近隣自治体との連携を図った。 ・「魅力ある観光資源の開発と整備」部分の令和4年度決算額は、約6,778万円で、令和3年度決算額約5,566万円に対し1,212万円増加した。主な原因は、新型コロナウイルス感染症の拡大による令和3年度の指定管理観光施設の減収分の清算金と万葉自然公園たくりの里のナラ枯れ対策、観光施設の改修に支出した。	【令和5年度で解決する課題】 ・観光施設の管理や運営、再整備等について、今後の方針を決定する。 【令和5年度以降にも引き継がれる課題】 ①安全で安心して快適に利用してもらえるような観光施設の維持管理 ②近隣市との連携による新たな観光資源の開発と観光ルートの開発 ③特産品・名産品の観光資源化 ④利用者ニーズの把握及び体験型宿泊施設の体験メニュー等の充実と効果的なPR ⑤観光案内板の整備 【令和6年度重点課題】 ⑥林道作原沢入線の観光活用への検討	①観光客が、観光施設を安心して安全に利用できるよう「新しい生活様式」に沿った受入環境の整備に努め、利用向上に取り組む。また、今後の観光施設のあり方について、民間活力の活用を含めて検討を行う。 ②観光協会や近隣自治体等と連携し、観光の回廊化を図ることのできる新たな観光資源及び観光ルートを調査・検討する。また、2次交通としての電気自転車の利活用について検討する。 ③学生等との連携などにより、名産品や特産品等を生かした観光資源として整備し、SNS等を活用し、周知を図る。 ④市有施設の利用者ニーズを把握し、体験メニューの充実を図り、リピーターの増加及び効果的なPRを図る。VR・ARなどを活用した観光PRを行う。 ⑤本市の玄関口となる効果的な場所に、国際化対応看板を設置する。 ⑥みどり市と相互のイベント参加等により連携を継続するほか、林道作原沢入線を活用した観光振興を図るための具体的調査を実施する。